

十一 参議院選挙

兄が「百万円出すから参議院選挙に出よ」といったことがあります。私は簡単に考えて出なかつたのですが、今思えば出たほうがよかつたと思つづく思ふのです。新潟県新発田の宮村嘉吉さんが「新潟県で三万票は取つてみせる」などといつていたこともあつたのですが、今思えば何故出なかつたかと思ひます。もし幸いにして当選していたら、兄の偉大な研究を国家的に取上げてもらうのにどんなに力強く運動ができたかと思ふのです。政治力がないため思ふような運動ができないのは誠に残念です。選挙に出ても当選するかどうかわからないのですが、私の一生のうち残念だつたと思ふことの一つは、この選挙に出なかつたことでした。

兄は無類の天才でした。京都大学在学中、講義を聞きながら全部英語になおして書いていたのです。単語を少し混ぜて書くというのではなく、英語で講義されたかと思ふほど、講義を聞きながら即座に英文文化して書いていたのです。そのため日本語を即座に英語に直す方法、反対に英語を即座に日本語に直す方法を見つけ出したばかりでなく、いろいろな科目、ことに英語の他、数学、化学などは特によく出来ており、こういう学科を短期効果的に教育する画期的方法「要体」を創案していたのです。そしてこれを京都の両洋中学（現京都両洋高校）で生徒に教えていたのです。その教育がすばらしいということで教育審議会で